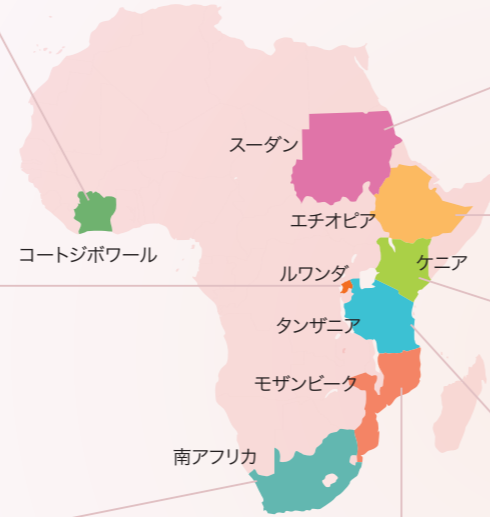


アフリカの未来のために 産業を支える人づくり

特集
動く、アフリカ

アフリカの民間企業や政府機関などで働く若者が日本へ。「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ」—ABEイニシアティブが「ついに始動した。昨秋に来日した彼らの抱負を聞いてみよう。」



インドリ・カン・ダヴィドさん



所属：調査会社
リサーチアシスタント
修士課程：国際大学
国際関係学研究所

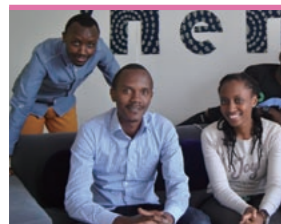
経済から貧困を読み解く

なぜこの世界には、発展している国とそうでない国があるのか。私が国際経済を学び始めたのは、そんな疑問がきっかけでした。先進国の特徴を知り、発展した要因を見つけ、国と国がどのような関係を築いてきたのかも突き詰めたと考えています。

コートジボワールでは農業が最も重要な産業ですが、生産性が低く、食料不足です。また、数年前の政治的な混乱により各地の会社が倒産し、多くの人が仕事を失ったまま。この現状を変えるためには、生産性を高め、産業の発展につなげることが不可欠です。

国際大学ではマクロ経済やミクロ経済、開発政策などを学び、帰国後は貧困削減に向けたプロジェクトに携わりたいと考えています。

ムガルラ・アミーリさん



所属：ICTサービス会社
最高技術責任者 (CTO)
修士課程：神戸情報大学院大学
情報技術研究所

生活に役立つICT技術を

ルワンダでは、ソフトウェア開発などのICT産業が大きく発展しています。私は大学時代にコンピューター工学を学び、同級生と共に携帯電話のアプリケーションを開発する企業を立ち上げました。地域が直面する課題を携帯電話やICTを使って解決することを目指しています。

神戸情報大学院大学では「探求実践」という理念を通じて、ICT技術をどうやって日常生活と組み合わせるかで問題の解決策につなげるか、模索しています。毎日が発見の連続です。

帰国後はもっと多くの人々のニーズに応えられるよう、教育や農業、保健以外の新しい分野で使えるサービスを開発したいと思っています。

ピラカジ・ブレッシングさん



所属：輸送関連会社
エンジニア
修士課程：大阪大学 工学研究科

製造業で未来を変える

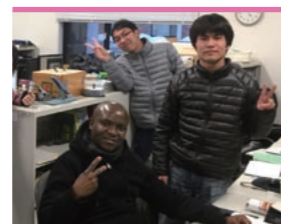
金、鉄、銅、ウラン、プラチナ、マグネシウム、コバルト、ボーキサイト…。南アフリカはこういった金属資源が豊富な国です。

国の発展のためには、これらを活用した産業の活性化が不可欠です。資源をそのまま輸出するのではなく、例えば金やプラチナ、ダイヤモンドを使った装飾品など、製品として国内で加工し、付加価値を

付けることができれば、南アフリカの人々が手にする利益を大きくすることができます。

私は大阪大学で工学デザインの最先端の技術を学んでいます。帰国後は自国に新しい技術を紹介し、工業化を進め、製造業のイノベーションを進めるバイオニアになりたい。そして日本と南アフリカの貿易を活性化できたらと考えています。

カイショーテ・フェリシアノさん



所属：エネルギー省
技術者
修士課程：京都大学 工学研究科

可能性を開く新エネルギー

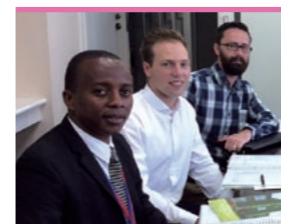
私はモザンビークのエネルギー省で、風力、太陽光、水力、地熱といった再生可能エネルギーの開発を担当しています。

この10年、モザンビークはエネルギー分野で大きな成長がありました。2004年に電力を使える人の割合は7%だけだったのが、2013年には36%に増えました。そして初めての取り組みとして、天然ガスを

供給する海底パイプラインや太陽光パネルの製造工場の建設も始まりました。

京都大学では構造工学などを学び、開発途上国での風力発電タービンの最適な構造デザインについて研究しています。再生可能エネルギーの開発を進めることで、電力ネットワークを広げ、地方にも電力を届けられる第一歩になると思うからです。

レオ・カリマさん



所属：開発コンサルティング会社
コーディネーター
修士課程：立教大学 経営学研究所

発展のカギを握るインフラ

大きな港を持つタンザニアは、東アフリカの国々の流通のハブとなる国です。政府は各地をつなぐ道路整備に力を入れているものの、重量過多のトラックがたくさん行き来するため、いくら舗装しても道路はすぐに傷んでしまいます。

私は開発コンサルティング会社のナショナルコーディネーターとして、タンザニアの運輸インフラ計画に携わってき

ました。その仕事を通して痛感したのが、鉄道網を整備することの大切さ。現在はほとんど機能していませんが、安く効率的に大量の貨物運べる鉄道網は、ビジネスを活性化させるカギになるはず

です。立教大学では日本のインフラ開発の経緯などについて学び、将来は日本とタンザニアの企業の橋渡しができればと考えています。

アフナン・アバヤジードさん



所属：環境調査会社
調査員
修士課程：熊本大学大学院
自然科学研究科

鉱山での環境汚染を防ぐ

スーダン金は金などの鉱物資源に恵まれた国。しかし鉱物資源の採掘は、時に環境問題を引き起こしてしまいます。近年、スーダンでは経済発展に向けて金の採掘が活発になってきているので、伝統的な採掘方法がどのように環境に影響を与えているのか、採掘に使用する水銀の汚染が広がっていないかを熊本大学で研究しています。

水銀は、鉱山で働く人々の人体に影響を与えることも考えられます。熊本は水銀中毒による水俣病を経験した場所。その過去の経験から学べることは多いはず。帰国後は環境調査員として、鉱業省や環境省などで日本で学んだ知識を生かせればと考えています。

ピラッサ・ケルベッサさん



所属：革製品製造会社
生産管理マネジャー
修士課程：早稲田大学大学院
情報生産システム研究科

ものづくりの秘訣を学ぶ

日本はものづくりの技術をどう培い、製造業で世界を引っ張ってきたのか。私は革製品を製造する会社で、日本の協力で普及したカイゼンなどを取り入れた品質管理を担当しています。ですから、日本で学ぶことは長年の夢でした。

エチオピアには家畜が多く、革製品の原料がたくさんあるのに、まだ大きな産業にはなっていません。せっかくの資源を活用できていないのです。早稲田大学で学ぶことで、品質と生産性をより高める知識を身に付け、母国の革産業の発展に貢献したいのです。

日本ではお風呂場のタオル掛けがバスタブから届く位置にあるなど、小さなことでもきちんと計算されていることに驚き、日本が大好きになりました！

マイタイ・ムトウマさん



所属：エネルギー関連会社
管理マネジャー
修士課程：宮崎大学 工学研究科

工業化の原動力を確保

2014年、国際通貨基金のランキングで、ケニアは開発途上国から中所得国に格上げされました。政府は「ケニアビジョン2030」という長期国家開発計画を立て、工業化による経済発展を目指しています。

しかし、エネルギー不足が壁になっています。2013年時点で、68%の人々がエネルギーとして使っているのはまき。電力を使えるのは人口の25%だけ

です。既存の水力、地熱、火力発電に加え、これからは太陽光や風力、地熱発電も組み合わせる必要があります。

宮崎大学では再生可能エネルギーとスマートグリッド技術の融合などについて学んでいます。工業の活性化につなげられれば、優秀なのに仕事がないケニアの若者に雇用の機会を生み出せるはず

※「第5回アフリカ開発会議 (TICAD V)」で安倍晋三内閣総理大臣が表明。5年間でアフリカから1,000人を受け入れ、日本の大学院での教育と企業でのインターンシップの機会を提供する。